

Fleece of the Year 2020 受賞者からのお手紙

“Fleece of the year 2020”の審査が終わって7月末に、受賞牧場に看板とロゼットをお送りしました。羊飼いからのよこぎのメールの中から、ここでは2通をご紹介します。

丸岡圭一さんは、家族で経営されているひつじ工房Quillで金賞、羊飼いとして勤務している(有)愛知兄弟社 愛知牧場で銅賞、というかつてないダブル受賞でした。

そして三好真裕さんは、去年特別賞を受賞、今年銀賞受賞と着々とステップアップされました。日本には珍しいケンプタイプのフリースで私も注目しています。

羊飼いの原点をうかがい知るといえるような、お二人からの手紙です。(本出)

金賞・銅賞受賞 — 丸岡 圭一 さん

すべてはスピナーのために

受賞の看板とロゼット、ありがとうございます。嬉しいと共に身の引き締まる思いです。私がここまで歩んで来られたのは、ひとりのスピナーさんとの出会いがあったからです。

「羊の毛を下さい」。その時私は、「ひつじ工房Quill」というふれあい動物園の飼育員でした。羊毛はイベントで少し使う程度で、余った毛は袋に詰めて保管するだけ。「お好きなだけどうぞ」。私は汚れた原毛を差し出すと、スピナーさんはとても喜んで持って帰られました。後日お話を聞くと、「家で洗うと家族が嫌な顔するので、駐車場隅で洗っています」。と笑いながら話されるその表情を見て、私はとても申し訳なくなりました。それからしばらくして、その方との連絡が一切取れなくなりました。この時からです、私が羊毛と真剣に向き合うようになったのは…。

私が目指すのは「洗わなくてもいい原毛」です。“すべてはスピナーのために”。感動するほどの原毛を届ける事が出来たら、きっとその先へと感動は伝わると信じています。あの時のスピナーさんから頂いたこの「羊帽子」を被り、これからも羊たちと共に美しいフリース作りへと挑戦して参ります。

そして私が勤める愛知牧場では、羊を知らない一般の方へ、羊の魅力をたっぷり詰め込んだ「愛知牧場ひつじフェスタ」を企画し開催しています。今後ともどうぞお力添えの程よろしくお願い致します。

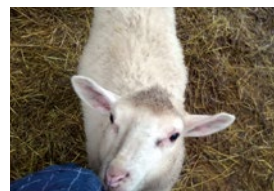
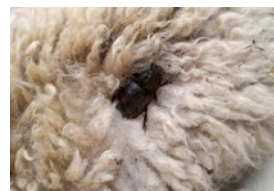


銀賞受賞 — 三好 真裕 さん

しっかり食べているか…元気に歩行しているか…ずっと観察しています

国産羊毛コンテストの入賞プレートとロゼット、ありがとうございます。早速玄関にプレートを取りつけました。今年も採点表を確認し、次に気を付けること、丁寧に扱うことを改めて認識しました。

去年特別賞受賞のゴマがいなくなり、寂しい時もありますが、羊の飲み水入れや掃除をしている時に、ふと羊たちを見ると子孫に面影があります。その時は懐かしい思いが心を満たしてくれます。季節の変わり目は羊の体調が一番心配になります。しっかり食べているか、元気に歩行しているか、ずっと観察しています。今年の夏は長く30℃以上の日が続き、熱中症の症状が出る羊もいました。疲れが秋に出ないように気をつけてあげたいと思います。今羊たちの楽しみは栗ひろいと柿ひろいなのです。強風が吹くと木の下で待っています。まだ熟していないのに…。かわいい食いしん坊たちです。



上左/ケマリと娘キリン、サフォークが父親のケマリは、いろんな仔羊を生んでくれます。ゴマの娘がクロエです。
上右/カンペーの背中にいるカブトムシ。羊小屋のまわりにはカブトムシがたくさんいます。朝には羊の背中で休憩しています。
中左/ニーナと娘ララ 中右/ベコ
下左/ケマリの娘クロエと息子のカンペー 下右/生後4か月のララ